

「あなたの役割とは＝証人」

使徒 1 : 7 ~ 9

コロナウイルスの事を通して私達は様々なことを学んでいます。何千年もある時代の歴史の中、みなさんはこの2020年という時を生きています。文明時代に入り、そして情報時代に入ってこのような事件がおこったことはかつてありません。これまで各国では様々なことがありました。日本では、戦後、「闇市」「阪神淡路大震災」「東日本大震災・福島原発事故」。このような経験を通して日本は何か変わったでしょうか。この歴史を自分の人生に置き換えてみて、このことを通して自分自身の人生に大きな変化がありましたか？またこのことを通して何かを具体的にしましたでしょうか？岡山ではコロナウイルスの緊急事態宣言が解除されました。しかし大切なのはその後、このことを通して私達が、次の物理的対策ではなく、生き方をどう変えるのかということです。

■ 主の約束はあなたが正しく語るためである

証人…教会で良く使われますが、世の中では裁判で良く使われる言葉です、言葉に正しいという字を書きます。裁判をする時、アメリカでは聖書に手を置いて誓います。日本の裁判の証言も実は聖書的告白に基づいています。神の前に誠実に真実を語るということです。証人とは、神の前に正しく語るという事です。クリスチャンの責任は、「はい」「いいえ」「いいえ」と語る事です。顔は笑顔で、心では排除していることがよくあります。これは偽りの証言です。でも真向から「嫌い」という事が証言ということではありません、自らの心の良心に手を置いて事実を語る事、それは嫌いという心の感情に対し、そうであって良いのか？という神様の問いかけに対して自分が正しく語ろうとすることです。(1章8節)証人とはイエス・キリストの証人です。

(使徒の働き 1 : 15 ~ 20, 2 : 23 ~ 38)

ペテロが多くの群衆に向かって、特にユダヤ人に語った箇所です。ここに登場するペテロは変わりました。何が変わったのかというイエスキリストが生きた生き方の証人になったからです。証人になる為にはどうしたらよいのでしょうか。聖書には「約束のものをうけなさい、そうすると地の果てまで私の証人となります。」と書いてあります。証人に「なれ。」という命令ではなく、「なる。」と言われました。すなわち、「なる。だからから待て。」といわれたのです。待っていたらそうなるのです。

■ 私達の立つべき位置はどこか

裁判は、悪い事を犯した人に対しての事を周りの人が証言し成り立っていきます。私達の立ち位置はどこなのでしょう。私達の多くは勝手に裁判官のようになり裁き、罰し、排除しています。これは裁判官の仕事です。知識がある人は特に気を付けなければなりません。物事がわかってしまうので、判決を下しやすくなります。では聖書では、間違った行為に対してほっといて良いと言っているのではなく、正義は自らに向けるもので、自分に罪があるのならその人を愛せといっています。愛して最善を尽くす事です。その役割は、弁護士です。弁護士になるには、裁判官から弁護士という役割の任命を受けることが必要です。任命をされてもいないのに勝手に弁護のようにはしてはいけません。隣人の身になり助けていくときには、神様がせよと言われてから行わなければなりません。同情によってではなく、神様から与えられた愛に基づいて行います。バロメーターは愛でその場しのぎの解決ではありません。弁護士の仕事は、裁判でその人がただ無罪になればいいということではありません。裁判後、その人が社会的信用を取り戻すために裁判の現場で関わる事が仕事です。すなわち、クリスチャンの仕事は証人からスタートし、証人が神様の役割に立って任命された時、弁護士になっていきます。裁判の中で私達が役割に立ってはならないのが、検事側です。この仕事は聖書の世界では悪魔の仕事で、ディアボロス(反逆者)、サタン(告発者)という意味です。名前が地に落ちるように、持っているものが地に落ちるようにその人を攻撃し、その人の立場を悪くしようとする行為です。(ヨブ記) 検事は犯罪者をいかに有罪にするかが仕事で、警察官は証拠をつけて検察に報告し、検察はその人を有罪にするために闘うのです。同じ司法試験をもった裁判官・弁護士・検事が闘うのです。一人の人は2人の話を聞いて判決を下す。一つの人はその犯罪者を守る。一つの人は犯罪者に罰を与え

る。不思議な成り立ちです。これは、以前は神の仕事でした。しかし人は、人の目に見える王がほしいといいサウル王の日からこのような方法で人を有罪にするようになっていきました。それまでは人々が神の前に出て祭司が生贄を犠牲で捧げて、神が赦されるなら取り下げられて、有罪ならその人が死ぬという裁判でしたが、今ではこのような形になりました。聖書で最初の裁判官になってしまった人はアダムです。神を裁き、女性を否定しました。私達はその告発するもの(原告)の性質を抱き、生きています。ユダは、告発者になり、裁判官になっていきました。イエスキリストがする行動について文句を言うようになり、とうとう銀貨30枚で偽りの証言をしてイエスキリストを売りました。最後は首を吊って自ら死に、谷底に落とされ体中が張り裂けました。人を裁き告発する者、裁かれ谷底に落とされるということが書かれています。(サタンの最後)ユダの死は告発者になったものの生き方の象徴となりました。私達は罪を犯した人を告発したり、罰を与える為にいるのではなく、愛して、その罪の道から立ち返るために存在しているのです。私達は証者であり、イエスキリストが語ったことを証言すること、これが仕事です。ペテロもイエスキリストを裏切りましたが途中まで回心しました。そして体験をしたことを語ったのです。(使徒 2 : 38)ペテロは大失敗をしましたがこれ以上してはいけないと決心し、生き方を変える決断をしました。

■ 目を閉じて感じる～強く待ち聞く～

人を裁く前にまず神様に聞いてください。あなたが告発者になるとユダになってしまいます。任命されていないのに弁護をしていくとき、決して間違っではなく、あたかも正しいことを言っているのに、心の動機は愛ではなく、裁判官になっています。それは自らが神になっているということです。神になると悔い改めることができません。赦す人がいないからです。悔い改めない行為は悪魔に心を売る行為です。だから神はあなたの心を悔い改めなさいと言われました。悔い改めるのは決断です。その決断は助け主である聖霊の力が必要です。どうしたら力を受けることができるのでしょうか、それは待つて聞くことです。私達が先へ先へと行っている以上聞けず、待てません。ダビデのようにいつも主を前に置かなければいけません。イエス様の姿勢です。「この盃をわたしから取り去ってください。しかしわたしが願う事ではなく、御心の通りになりますように。」

私達の最高の弁護士はイエスキリストです。費用を一切請求しないどころか、イエス様ご自身が犠牲を払い弁護してくださいました。イエスキリストの十字架に学びましょう。

さいごに

この時に生かされているあなたは、何を学び行いますか？

あなたの礼拝のスタイルはどうでしょうか。オンラインで礼拝をする時、教会に来ていた時と同じように礼拝を大切に出来ていますか。教会は建物ではありません。あなた自身が教会です。あなたの心の宮、また会堂となる場所は礼拝するに相応しく整えられているのでしょうか？あなたの礼拝への姿勢はあなたと神様の関係のバロメーターです。このような生活になり、あなたの弱さが出やすくなっていないでしょうか。今一度振り返りましょう。

そして私たちは将来の為に備えていこうとしています。自分の為だけに生きるシーズンは終わりました。自分は何をするべきか、神様の前に出ていきましょう。もしあなたが役割に立ち、使命を果たして行くならば「あなたの為なら」と共に働いてくれる友が与えられるでしょう。そしてあなたも「この人の為なら」と思える友に出会えます。今そのような友がいるのでしょうか。あなたの友人関係を振り返ってみましょう。イエス様は私たちを友と呼ばれています。だから私達も友と呼ばれる仲間を作っていくのです。私が前に出るのではなく、友であるイエス様を前に置いて歩んで行きましょう。

(要約者:富岡牧)

(2020年5月17日)